

ふ じ の く に

# 少子化突破戦略の羅針盤

静岡県

# 事業実施の背景

県民が理想とする子どもの数「2人から3人」という  
希望が叶えられる社会の実現を目指す

数値  
目標

合計特殊出生率

H26 1.50  
(全国値 1.42)



目標値 「2」 ※1

各計画に数値目標として掲げ、施策を推進



静岡県総合計画  
後期アクションプラン  
(H26.3策定)



ふじさんっこ応援プラン  
(H27.2策定)



美しい“ふじのくに”まち・ひと・  
しごと創生「長期人口ビジョン」  
「総合戦略」(H27.10策定) ※2



静岡県の新ビジョン 富国・有徳の  
美しい“ふじのくに”のひとづくり・  
富づくり (H30.3策定) ※3

- ※1 少子化対策に関する県民意識調査によると、平均理想子ども数は2.43人であり、「2人」または「3人」の子どもを理想とする割合が高いことから、「2」を目標値とした。
- ※2 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョンでは、2060年に300万人程度の人口を確保するための対策として合計特殊出生率2.07(2020年)を掲げていた。
- ※3 静岡県の新ビジョン 富国・有徳の美しい“ふじのくに”のひとづくり・富づくりでは、数値目標ではなく、目指す姿の具体的なイメージの一つとして「自分が望む数の子どもを生み育てられる社会に」を掲げ、その現状を確認するための基準として「合計特殊出生率の向上」を位置付けた。

# 事業実施の背景・目的

## 背景

- 静岡県は、東西に長く、地域によって産業構造や立地条件に違いがある
- 市町別合計特殊出生率は、同じ地域内で高い市町と低い市町が混在しており、ばらつきが見られる

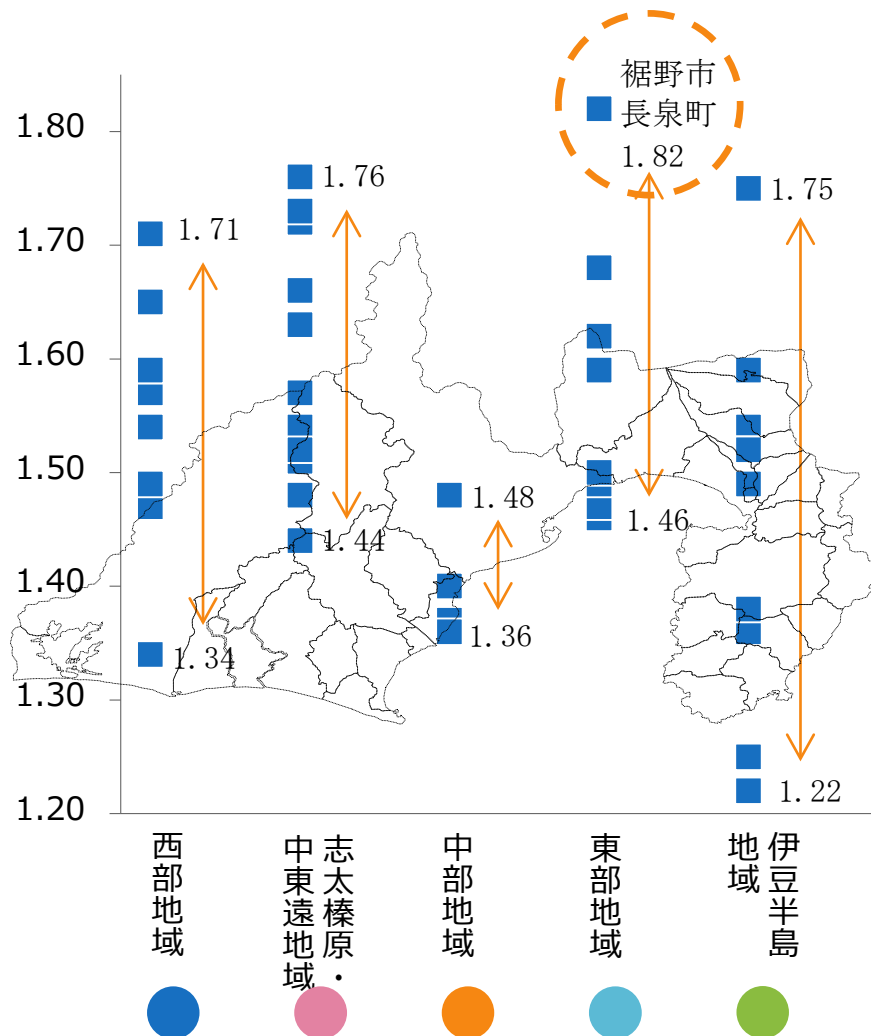
## 目的

県が市町の協力を得て合計特殊出生率への影響要因を把握・分析

分析結果の「見える化」

市町独自の取組の加速化

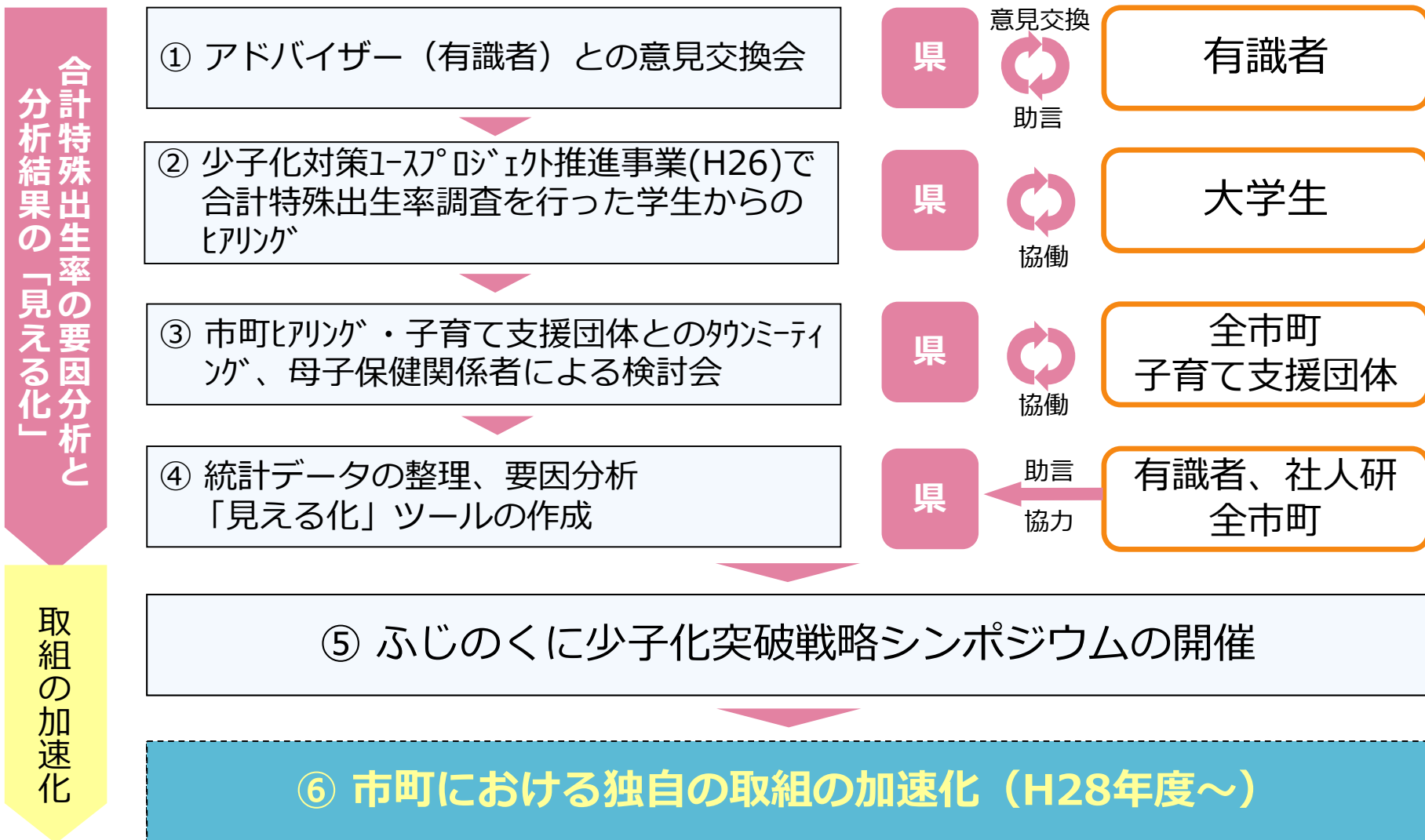
## ◆市町別合計特殊出生率の分布（H20-24）



(資料) 厚生労働省「平成20年～平成24年人口動態保健所・市区町村別統計」  
(注釈) 地域区分は「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」の地域圏。

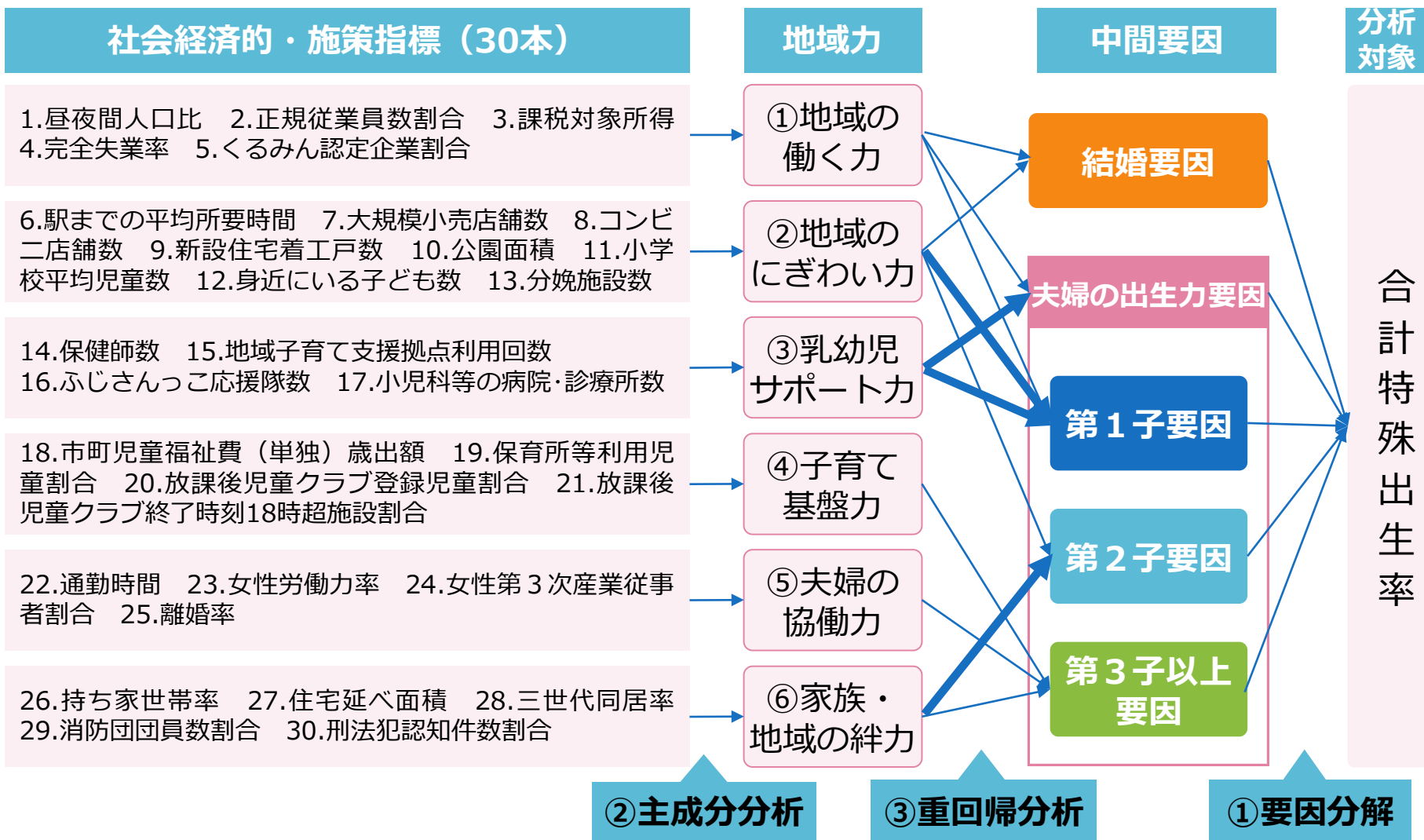
# 事業スキーム

市町との協力、有識者・大学生・子育て支援団体等の意見を取り入れて実施



# 分析の全体像

30本の指標を3段階で分析し、合計特殊出生率との関係性を探り出す



# 分析結果の見える化

全35市町の分析チャートを作成！ わかりやすく市町別の要因を記載

東部地域

裾野市

Susono

●合計特殊出生率

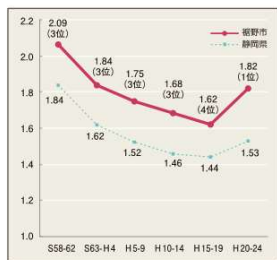
**1.82**

(県と比べて+0.29)

【県内順位 第1位】

地域の働く力 ★★★★★  
 地域のにぎわい力 ★★★★★  
 乳幼児サポート力 ★★★★★  
 子育て基盤力 ★★★★★  
 夫婦の協働力 ★★★★★  
 家族・地域の絆力 ★★★★★

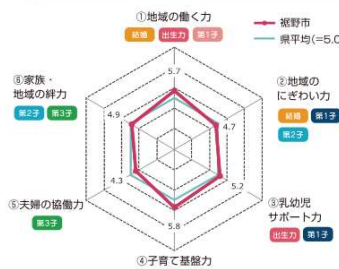
## 1 これまでの合計特殊出生率



## 2 県出生率との差が生じている要因



## 3 出生率に影響している市町の総合力



## 総合力と要因との関連

### 結婚要因

①②が高い市町では、逆に⑤⑥が低い傾向にあり、裾野市も例外ではなく、⑤⑥が第3子以上要因に-の影響を及ぼしている。しかし、④が県平均以上であり、第3子以上要因に+の効果をもたらしているため、第3子以上要因を0.00の水準に留めていると考えられる。このため、出生率別要因の合計である夫婦の出生力要因は0.05となっている。

### 第3子以上要因

①②が高い市町では、逆に⑤⑥が低い傾向にあり、裾野市も例外ではなく、⑤⑥が第3子以上要因に-の影響を及ぼしている。しかし、④が県平均以上であり、第3子以上要因に+の効果をもたらしているため、第3子以上要因を0.00の水準に留めていると考えられる。このため、出生率別要因の合計である夫婦の出生力要因は0.05となっている。

## 4 特徴的な施策の紹介

### 宅地分譲事業補助金

#### 目的

大手企業の研究所・工場等が集積している地域特性を活かし、職住近接の地域づくりを進めるため、優良宅地供給を促進する。

#### 概要

市街化区域内の農地等を一戸建て専用住宅用地として分譲する民間事業者に対して補助する。

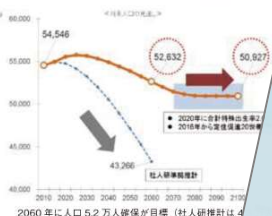
○補助額：50万円/区画  
 (区画数 15区画未満の場合：40万円/区画)

#### ○補助の条件

- ・3区画以上の分譲
- ・1区画面積165㎡(50坪)以上
- ・接続道路幅員6m以上
- 実績(事業区画数)
  - ・平成25年度：28区画
  - ・平成26年度：97区画
- 制度創設：平成24年度



分譲区画のイメージ



## 5 自慢できるポイント

### 子育て中の親が安心してできる医療体制が構築されている

市内には小児科医療機関が5か所あり、うち3か所が小児科専門医である。子どもを取り巻く構築と充実は、安心して産み、育てるための大きな存在である。

### 「母親クラブ」による充実した地域の子育て支援活動

5つの母親クラブがあり、各クラブの会員が主体となって活発に活動を展開し、地域で子育ての交流を深めている。

### 大手企業の研究開発部門や工場の集積による安定した雇用の確保

## 6 市長からひとこと



よい子が育つには、よい環境が大切です。雄大な富士山には、総合戦略の「すべての起点となるひとづくり 共育」の基本姿勢を着実にきめ細かく、また効果的に少子化対策を進め、平成32年度までに合計特殊出生率を2.07に向上させることを目指しています。「子育てにやさしいまち・すその」「子育てするなら・すその」のまちづくりに企業を含めた市民、行政「オール裾野市」で挑戦していきます。

裾野市長 高村 謙二



静岡県ホームページでPDF版を公開しています！

静岡県 少子化突破

検索

<http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-130/toppa.html>

# 羅針盤の公表後

国からも評価され、平成29年度当初予算において分析結果を踏まえた新規事業を予算化

## 国からの評価

- 第1回地域働き方改革支援チーム会議（H28.2.26）で好事例として紹介
- 第6回一億総活躍国民会議（H28.3.25）で羅針盤を配布
- 平成28年度地域少子化対策重点推進交付金事業の優良事例として、全国で紹介され、横展開が図られる

## 県関係部署・市町との情報共有

- 平成28年5月、「ふじのくに少子化突破戦略会議（全体会）」を開催、県の関係部署と情報共有を図り、市町の効果的な少子化対策の取組促進について協議
- 平成28年7～8月、「ふじのくに地域少子化突破戦略会議」を開催し、市町の実情に合った独自の取組について意見交換を行った

## 市町を支援するための県の施策

- 「ふじのくに地域少子化突破戦略会議」における市町からの要望を受け、平成29年度当初予算において、「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」の分析結果を踏まえた効果的な事業を行う市町に助成する「ふじのくに少子化突破戦略応援事業」を予算化

# 羅針盤の活用 ～ふじのくにに少子化突破戦略応援事業①～

## 現状・課題

- 合計特殊出生率に影響を与える要因が明らかとなり、各市町が取り組むべき課題が明確化
- 各市町の地域特性に応じた効果的な事業の取組の推進

平成29年度～平成31年度の取組 【各年度予算 100,000千円】

## 目標

### ◆ふじのくに少子化突破戦略応援事業費助成◆

#### ■ 補助対象事業

「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」による分析結果を踏まえた、地域の特性に応じた効果的な事業

- ・ 選定審査委員会（外部有識者等）の審査において、3年間の事業計画を審査し決定

#### ■ 実施主体

市町（政令市を除く33市町を対象）

#### ■ 補助率・補助額

県1/2、1市町当たり1,000万円を上限

#### ■ 実施期間

3年間（H29選定市町を継続支援）

#### ■ 採択の状況

22市町、63事業

#### ■ 事業の効果検証

各事業において設定したKPIの達成度を評価するとともに、毎年度公表される出生数の推移を確認

県民の皆さんの「2人から3人の子どもを持ちたい」という希望をかなえるために「子育ては尊い仕事」の理念の下、子どもと子育てを大切にす社会を実現



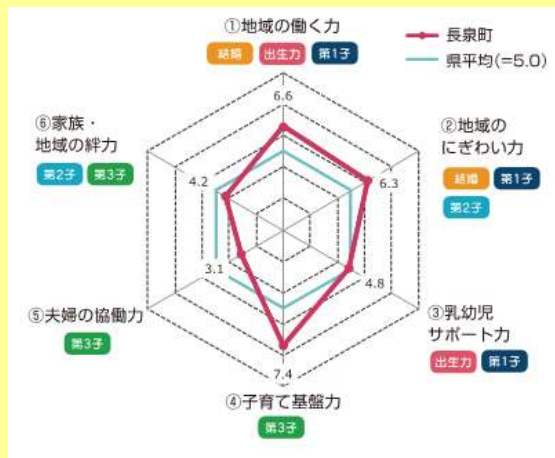
# 羅針盤の活用 ～ふじのくに少子化突破戦略応援事業②～

## 採択事業例（22市町63事業）

### （例1）長泉町 ベビーステーション事業

- 合計特殊出生率 1.82
- 地域力区分 ⑥家族・地域の絆力（4.2）

長泉町のレーダーチャート



#### ■ 実施内容

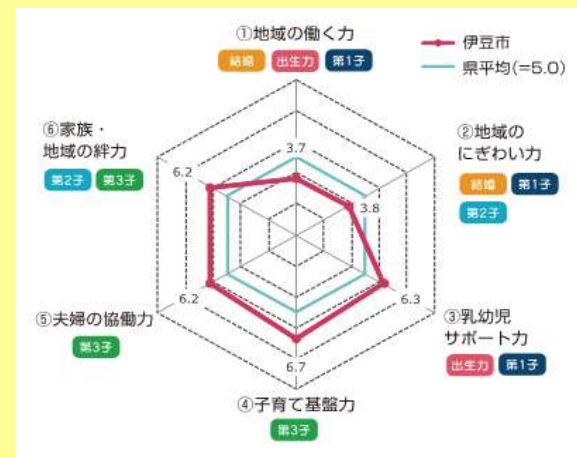
コンビニなどに、おむつ交換台や授乳スペースなどを提供する施設を「ベビーステーション」として認定。

子育て世帯が安心して外出できる環境づくりを行い、町全体で子育て支援に対する機運を高め、地域の絆力の向上を図る。

### （例2）伊豆市 父親教室事業

- 合計特殊出生率 1.25
- 地域力区分 ⑤夫婦の協働力（6.2）

伊豆市のレーダーチャート



#### ■ 実施内容

子育て中の父親同士と一緒に料理を作り、母親や子どもと一緒に食べる父親教室のほか、夫婦協働による工作教室などの父親教室を実施。

父親の積極的な家事・育児への参画を促し、母親の負担軽減を図ることにより、出生数の向上を目指す。